

事例2 中学校（当該学年と同じ教育課程に「自立活動」を取り入れる場合）

学級及び生徒の様子

自閉症・情緒障害特別支援学級には、4名の生徒が在籍している。その中で、3年生B生徒が理科、社会、音楽の授業で交流及び共同学習を行っている。

B生徒は、漫画のキャラクターや音楽を聴くことが好きである。また、社会の歴史や理科の実験が好きで、集中して取り組んでいる。一方、国語の文章読解や数学の文章題は苦手で、最初にはできなと思うと、諦めてしまうことが多い。同年代の友達とコミュニケーションをとることが苦手で、集団から離れて過ごすことが多い。

連携シートの記入

事前に特別支援学級担任が、「生徒の実態表」を記入、教科担当者が、単元名と単元の目標を記入しました。「生徒の実態表」は、個別の指導計画に書いている実態を転記しました。単元名や単元の目標は、1学期間に行う単元を記入しました。

特別支援学級担任は、それぞれの単元の目標を見て、B生徒に必要な支援の手立てを、支援例一覧表から選びました。

特別支援学級担任が、「生徒の実態表」を記入しました。その際、個別の指導計画に書いている実態を転記しました。

教科担当者が、単元名や単元の目標を記入しました。

特別支援学級担任が、単元名や単元の目標を確認し、支援例一覧表の中から該当する支援例の番号を入力しました。

<ポイント>



教育課程(A表) (3)年 氏名(B)	
生徒の実態表(個別の指導計画の実態を転記)	
学校生活全般の生徒の特徴	
漫画のキャラクターや音楽を聴くことが好きである。好きな教科は、集中して取り組んでいるが、文章問題は苦手で、最初にはできなと思うと諦めてしまうことが多い。同年代の友達とコミュニケーションをとることが苦手で、集団から離れて過ごすことが多い。	
教科に関する生徒の特徴	
<ul style="list-style-type: none"> 国語は、漢字を読んだり書いたりすることは得意で、語句もよく知っている。一方、作文や日記など、自分の考えや感想を文章で表現することは苦手である。 数学は、計算問題は意欲的に取り組むが文章題になると、問題の意味を理解して式を立てることが苦手である。図形問題は、得意である。 社会は、歴史が得意で、特に戦国時代が好きである。武将に関する豆知識も豊富で、よく発表をする。 理科は、実験は興味があるが友達と協力して行うのが苦手で、周囲の様子を見ていることが多い。 保健体育は、球技(バスケットボールやソフトボール)や水泳が得意である。 	
理科 1学期	
単元名	単元の目標
化学変化とイオン	化学変化についての観察・実験を通して、水溶液の電気伝導性や中和反応について理解するとともに、これらの事物・現象をイオンのモデルと関連付けてみる見方や考え方を養い、物質や化学変化に対する興味・関心を高め、身の周りの物質や事象を新たな見方や考え方で捉えさせる。
生命の連続性	身近な生物についての観察・実験を通して、生物の成長と殖え方、遺伝現象について理解させるとともに、生命の連続性についての理解を深め、生命を尊重する態度を育てる。
運動とエネルギー	力や物体の運動についての観察・実験を行い、力の基本的な性質を理解して運動の規則性に気づくとともに、力学的エネルギーの移り変わりや保存について理解し、日常生活や社会と関連づけながら運動エネルギーの見方や考え方を養う。
番号	支援の手立て
5	活動の切り替わりや集中がとぎれそうときに言葉を掛ける。
6	座席の位置に配慮する(見本となる子どものそば、後ろの席等)。
63	気持ちを切り替えられる言葉掛け(キーワード)をする。

支援例一覧表【連携シート(中学校A表)のフォルダ】には、特別な教育的ニーズに応じた支援例を80通り示しています。該当する支援例の番号を入力すると、文章が自動的に表示されます。

記入内容の確認

年度当初に、5月の職員会議の終了後、関係教員が集まって個別の指導計画の確認を決めていました。その確認をする会の中で、B生徒の交流及び共同学習についての話し合いも行いました。その際、事前に配付していた連携シートを活用しながら、関係する教科における個別の支援の手立てについて確認しました。教科担当者からは、追加した方がよい支援の手立ての提案が連携シートに書き込まれており、特別支援学級担任と共通理解を図りました。

教科担当者が、支援例一覧表にない支援方法を、「81、82、83」の欄に追加しました。

81	具体的にすることを一つずつ指示する。
82	少人数でできる観察・実験を準備する。
83	実験の際に、協力して取り組みやすいメンバーにする。

生徒の様子の情報交換

普段、持ってくる物や、宿題については、B生徒が自分の連絡帳に書いて自分で確認していました。B生徒の様子が朝から不安定なときは、口頭で関係教員に連絡しました。そして、授業での様子を昼休みの時間に情報交換しました。交流学級で気になる行動が一週間続いた場合には、教科担当者が「連絡事項」の欄にその様子を記入しました。

教科担当者が、特に気になったことを連絡事項の欄に記録しました。

連絡事項	6月 独り言が続き、B生徒に「心の中でしゃべります」と注意することが度々あった。
-------------	--

評 価

1学期末に教科担当者が連携シートに観点別学習状況の評価及び評定を記入し、併せて自由記述の欄にB生徒の良かった取組姿勢を文章で記入しました。特別支援学級担任は、その連携シートをもらって1学期の様子を確認しました。

2学期の各教科の個別の支援の手立ては、8月の第4週目の水曜日に個別の指導計画と併せて確認することとしました。

1学期末に、教科担当者が、観点別学習状況の評価及び評定を記入しました。

	観点別学習状況	評価	評定
理科	自然事象への関心・意欲・態度	B	3
	科学的な思考・表現	B	
	観察・実験の技能	A	
	自然現象についての知識・理解	B	

教科担当者は、B生徒の良い取組状況を自由記述の欄に文章で記入しました。

自由記述

観察・実験は関心があり、観察結果について手を挙げて発言する場面があった。実験の際、班員との協力姿勢は、自ら進んで班員に言葉を掛けないが、班員と一緒に行動を具体的に教師が言うと、他の生徒と交互に役割をこなしていた。